

良田地区

弥生時代・古墳時代の遺構、遺物を発見！！

良田平田遺跡

よしだひらたいせき

古墳時代の井戸に捨てられた甕



飛鳥時代から奈良時代初め頃（約 1300 年前）に造成された盛り土を掘り下げたところ、古墳時代の井戸の跡がみつかりました。そのうち、古墳時代前期末頃（約 1600 年前）の井戸跡から完全な形の甕が出土しました。しかし、この甕は口の一部を打ち欠き、胴に孔を開け、二度と使えない状態にしてあります。こうした加工は祭祀に使った土器を捨てる時に行います。井戸を廃棄するための祭祀を行い、甕を投げ込んだのでしょう。

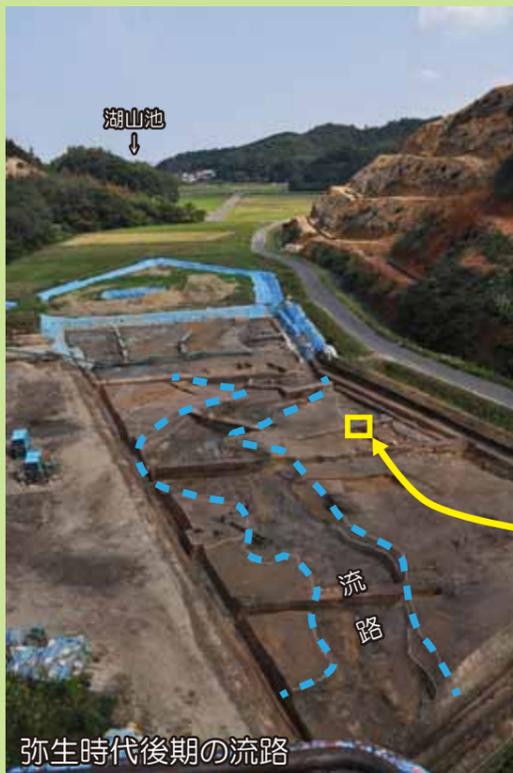
今年5月に始まった現地での発掘調査は10月末で終了しました。今後は出土品の整理作業を進めます。新たな発見にご期待ください。



良田中道遺跡

よしだなかみちいせき

弥生時代後期の流路が姿を現しました！



2区南側で弥生時代後期頃（約 1800 年前）の大きな流路が姿を現しました。幅は最大約 9m、深さは約 1m もあります。流路は大きく蛇行しながら湖山池に向かって流れていたようです。

流路の東岸には丘陵に沿うように溝が掘られていました。溝の中からは弥生土器が出土しており、中には祭祀のために作られたミニチュアサイズの壺もありました。

2区の調査もいよいよ大詰めになってきました。



ミニチュア壺の出土状況



1区の機械掘削風景

1区の調査も開始しました。2区の結果をもとに、1区でも様々な成果が期待されます。

鳥取西道路の遺跡を掘る！

第43号 2012年11月22日

11月を迎え、発掘調査もいよいよ終盤。各現場では様々な成果があがっています。

今回は、良田中道遺跡で出土した鍬に付属する『泥除け』についてご紹介します。



- ① 桂見鍋山遺跡(鳥取市桂見地内)
- ② 東桂見遺跡(鳥取市桂見地内)
- ③ 高住牛輪谷遺跡(鳥取市高住地内)
- ④ 高住井手添遺跡(鳥取市高住地内)
- ⑤ 高住平田遺跡(鳥取市高住地内)
- ⑥ 良田平田遺跡(鳥取市良田地内)
- ⑦ 良田中道遺跡(鳥取市良田地内)

鍬のようで鍬でない — 『泥除け』について —

今年度発掘調査を行っている良田中道遺跡で、古墳時代の溝の中から木材を縦横に組んだ遺構がみつかり、この複雑にからみあった木材の中から木製品が出土しました。

この木製品を洗ってよく観察すると、2枚の板を組み合わせた『鍬』だということがわかりました。私たちの身のまわりにある鍬の刃は1枚ですが、いったいどうして2枚の板が組み合わさっているのでしょうか。

実は2枚のうち1枚は鍬のような形をしていますが、『泥除け』という装置で、土を耕す部分ではありません。右の復元図のように、鍬の頭の部分にぴったりと組み合わさっており、鍬と柄の間にしっかりと固定して、鍬で掘り起こす土を抑えていたようです。

ところで、『泥除け』という用語を聞くと、鍬を地面に打ち下ろしたときに跳ね返る泥が自分にかからないようにするためのものと想像しがちです。しかし、近年の研究では、田んぼなどの土を手前にひいたり、ならしたりするとき泥がかかるのをさけるためのものと考えられています。



鍬が出土した木組みの遺構



出土した鍬・泥除け



鍬と泥除けの装着復元図

(財) 鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所
〒680-1133
鳥取市源太 12 番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)
TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス :
tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

今年度調査の出土品展示会を開催します！

開催日・時間：11月29日(木) 13:00～17:00
30日(金) 9:00～15:00

開催場所：松保地区公民館

今年度の発掘調査で出土した遺物を一堂に展示します。
調査員による説明もおこないますので、お気軽にお越しください。

鳥取県教育文化財団 調査室 検索

桂見地区



整然と区画された古代の水田を発見！

桂見鍋山遺跡

かつらみなべやまいせき



調査地遠景（北から）



古墳時代前期の水田面

桂見鍋山遺跡では、現在の地表から約1mほど下で弥生時代後期から古墳時代前期（約1900～1700年前）に耕作されていた水田が見つかりました。この水田は整然と区画されており、さらに調査区の外に延びています。かつては遺跡が立地する狭小な谷あい一面に水田が広がっていたのではないかと考えられます。

水田はその後、古墳時代前期のうちに使われなくなり、水生植物に覆われました。この植物が何百年にもわたり腐らずに泥炭となって厚く堆積することにより、結果的にこの水田面は守られ、とても良好に保存されていました。

中でも田んぼに水を引き込む水口^{みなくち}に、水量を調節するための板がはめ込まれたまま見つかったことは貴重です。これまでも古代の田んぼ^{あぜ}の畦^{あぜ}の周辺から用途不明の板切れが出土することはありましたが、この発見により板の具体的な使い方の一端が分かりました。

現代においても調査地周辺はのどかな田園地帯です。今回の調査により、この原風景が弥生時代^{さかのぼ}に遡ることが明らかとなりました。



田んぼの畦^{あぜ}がきれいに残ってるが～！

水田に水を引き込む水口を板でふさいでいます。



高住地区

高住牛輪谷遺跡

たかずみ うしわだにいせき



高住牛輪谷遺跡1区 古墳時代の遺構面

縄文時代の貯蔵穴を発見！！

高住牛輪谷遺跡2区では、縄文時代後期（約3000～4000年前）の貯蔵穴^{ちよぞうけつ}が2基みつかりました。貯蔵穴は大きさ50～70cmほどで、穴の中にたくさんのドングリが入っていました。貯蔵穴は標高約2mの低地にあり、ドングリは地下水で水づけにされていたようです。縄文人はアク抜きなどのために、このような地下水が湧く場所にドングリの貯蔵穴をつくったと思われます。

今後は、みつかったドングリの種類なども調べたいと思います。縄文人がどのようなドングリを集めていたのか興味は尽きません。



ドングリは穴の底から出土しました。



ドングリを拡大した写真です。ドングリは同じ種類のものようで、大きさもよくそろっています。

古墳時代の木のおもりが出土！！

高住牛輪谷遺跡1区では、ムシロなどを編むために使用する木錘^{もくすい}という木のおもりが3点出土しました。棒状の木材の中央はくびれており、鉄アレイのような形をしています。大きさは長さ14cm、直径5cmほどです。一緒に出土した土器の形から、古墳時代後期（約1400年前）のものと考えられます。

現代に残る民具にも同じような編み具があり、長い間、形を変えずに使われていたことが分かります。



木錘はたくさんの土器や木材に混じって出土しました。

最近まで使われていた編み具



鳥取県立博物館蔵

横向きの台板に、両端に木錘を結んだタテ糸を吊り下げ、ヨコ糸を編みこんでムシロなどを作ります。